

令和2年度 自己評価結果公表シート

第二すみれ幼稚園

1、本園の教育目標

<p>子ども達一人一人が楽しみながら思考力を高め、創造力や判断力を培う事につとめ、絵画・音楽教育、基礎的な体力づくり等の充実した保育内容で「明るいすなおな子ども」に育っていくよう日々の保育に取り組む</p> <p>本園の教育目標</p> <ol style="list-style-type: none">1、 明るい豊かな心をもった子ども2、 「ありがとう」とすなおな心をもった子ども3、 どんなことにも負けない我慢強い子ども4、 健康で心身ともに活動的な子ども

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

<p>幼稚園教育要領が改訂された事を考え、また自己点検や自己評価を実施する事によって本園での教育課程の内容を確認し教職員が共通の理解をはかり、教育の質を高める事で教育内容の改善に取り組む事を重点とする。</p>

3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
園内の安全管理の徹底化を図り、怪我の減少に取り組む。	子ども達が使う前に、遊具・おもちゃのこまめな点検とアルコール消毒をする事で安全確認をしっかりと行い、危ない時はすぐ修理をするようにした。また、園庭や廊下・階段では子ども達が危険から身を守るルールについて毎日繰り返し指導をした。今後はより一層全体の把握をし、異年齢でも安全に過ごせる様に努めていきたい。
クラス単位、学年単位、園単位で今までの保育を見直し、子どもの実態を考え行事の内容を工夫したり改善していく。	毎日の朝礼・終礼で意見交換する事や行事について話し合う機会が増えた事で教職員が何を必要があるのか共通理解することが出来た。しかし、今年はコロナ禍でより一層、一人一人の工夫と配慮が必要だった為、他のクラス・学年との連携が難しかった。今後も日々の振り返りを大切にし、園の教育目標達成に向かって全員で取り組んでいきたい。
発達障がい児への知識を増やすことで、子ども達みんながよりよい豊かな園生活ができるように取り組む。	今年はコロナであまり研修に参加できなかったが、前年度の申し送りや特別支援の先生と話をする機会を設けたことで障がい児・健常児との関わり方について深く理解することができた。今後は、園全体での情報共有を大切にしながら取り組んでいきたい。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

コロナ禍、手探り状態の感染症対策だった様に感じます。今年をしっかりと振り返り来年度に活かしていきたいと思えます。また、一人一人が自分の言動に責任を持って本園の教育目標に向かって工夫・配慮をし、子ども達に明るい豊かな保育と安全な空間を提供出来るよう、教職員一丸となる事が必要だと思えます。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
コロナ感染症拡大防止対策を中心に、様々な感染症対策をする。	クラス単位・学年単位・園単位で今までの保育を見直し、子どもの実態を考えて、行事・保育の内容や指導方法を工夫し改善していく。特に、日々の手洗い・うがいなど正しい生活習慣を指導し、豊かな保育と安全な環境の提供に努める。
園の中にある危険個所についての確認や子ども達が園生活を過ごす中で安全にすごせる決まりやルールについて取り組む。	昨年も取り組んできた課題だが、教職員で共通理解することが不十分だったと感じる。この反省を活かし、毎日の朝礼・終礼で日々の何気ない会話出来る環境を整え再確認するとともに、園内の施設や遊具の安全点検をこまめに行っていく。
発達障がい児や気になる子ども達の具体的な指導を受け、日々の保育に繋げる。	特別支援の先生の指導や専門家の話が聞ける研修への参加により、一人一人の知識を増やし、園内研修の場を多く設けることによって教職員全員が情報を共有し、家庭・行政と連携をとって取り組んでいく。

6、学校関係者の評価

今年度は、コロナの感染が拡大する中、休園から始まり、おもちゃの消毒・毎日の保育内容・様々な行事の見直しと子ども達との関わり以外での負担が大きかったと思えます。その状況の中でも子ども達が毎日笑顔で安心して幼稚園生活を過ごせたのは、教職員の方々が毎日きちんと子ども達に向き合ってくださっていたからだと思えます。今年度は、中止・縮小になった行事も多くありましたが、世の中の状況を考えると仕方なく、今年度の経験を来年度の行事の実施と感染対策の両立に活かされることに期待します。

7、財務状況

収入は若干減少しているが、それ以上に人件費が減少したため人件費率が減少し、全体の収支状況が改善された。減価償却費までは回収できていないが収支だけはかろうじて黒字となった。ただし、通常の設備関係費を支出していれば赤字となる状況ではある。